

グループ学習のまとめ “地域が輝く里地里山に！” “こうべ里地里山との共生”

コース・専攻：生活環境コース グループ名：さとやまドリーム

リーダー：佐野幸男、メンバー：秋友正美、奥山博子、関信夫、根津信子

こうべといえば、「港町」、「六甲山」、「スイーツ」、「ファッション」と「ハイカラなまちこうべ」のイメージがありますが、北と西に少し足を延ばすと、自然豊かな里地里山があります。近年これらの里地里山では、古くからある農家の家屋が放置され、その周りの田畑は遊休農地に、さらに放置が進み、景観や植生・生物の多様性が失われつつあります。その原因を探るために、G 学習のテーマを「こうべ里地里山との共生」としました。

私たちは、里地里山を活性化するには、「農業で生計がたち、活発で人が集まる農村」にすることではないかと考え、調査とフィールドワークを行いました。

「農業統計」や北神・西神地域の人口、地形、文化、特産物を各地区の「里づくり計画」で調べていくと、日本の農業問題の複雑さや、一貫性のない農業政策、差し迫っている食料自給率の低さ、農村が抱える「高齢化と後継者不足」や「遊休農地の増加」などの問題が、かなり深刻であることがわかりました。また、神戸市は農業生産額で近畿圏でも有数の農業都市であるにもかかわらず、フィールドワークでは他の都市と同様な問題点があがっていました。グループでは、①集落営農組合を設立し農村に多様な人材の参入を促す方法②遊休農地の有効的な活用方法③学校教育での農業体験の普及方法④健康志向型グリーンツーリズムの推進方法⑤地産地消の農家との連携方法を市民目線で提案しました。

都市部に住む私たちができることは、「地産の米や野菜を食し、購入する」こと、「里地里山に出向いて働き・遊び・集う」ことです。これらを実践することが、社会への意志表示となり世論を動かして、農業が活性化し「里地里山と共生する」ことにつながっていきます。皆さんの大きな支援が農業に必要です！

